

六ツ美の菜種栽培

六ツ美地区では大正から昭和30年代頃まで、菜種の生産が全国1を誇っていた。この地区の水田の全ての裏作には菜種が植えられていた。春になると、田は一面に黄色の絨毯を敷き詰めたように、見渡す限り黄一色に彩られ、羽角山から矢作川の堤防を見渡した眺めは見事なものであった。この六ツ美で菜種が栽培されるようになったのは、次のようなことがあげられる。

- ・明治の耕地整理で、中島付近の田が乾田となり二毛作ができるようになり、稲作の裏作で麦や菜種の栽培が始まっていた。
- ・六ツ美の土地は湿気に富む沖積層土で、その土に適するものは麦と菜種であった。菜種は裸麦、皮麦に比べはるかに有利であったが、小麦にはやや劣る点があった。
- ・品種改良の余地は、小麦の5割増収をめざす改良は至難であったが、菜種の改良は研究の結果、可能性が大きいことがあげられていた。
- ・地力増進という点から化学肥料多用傾向を避けていた。菜種は葉量が多く、土地への還元量が多かったので、緑肥栽培の役目を果たした。
- ・麦作は、播種期の早い方が収穫量も多くあったが、稲作の収穫調整期と重複するため、過重労働となった。菜種は農閑期作物であり栽培法によっては労力の分散ができた。

以上の内容は、大正4年の悠紀齋田の記念事業として設立された農業補修学校（六ツ美第1尋常小学校、現、六ツ美中部小学校に併設）の太田功平教頭が、1928（昭和3）年に公表した研究結果「二毛作としての藁藁の価値」（藁藁（うんだい）とは菜種）に記されている。このような調査研究を踏まえて、栽培法の改善が急務とされて、その後は六ツ美種の開発に焦点化して研究が継続された。

1929（昭和4）年には、太田功平教頭らの努力によって、1反あたりの収穫量を従来の2倍以上に高めることができた。こうした六ツ美の菜種栽培の成果と農村経営の実情は社会的にも高く評価されたので、多くの参観者が六ツ美に訪れた。衆議院議員の早川龍介の努力もあり、高松宮殿下、牧野内大臣など著名人の農業視察を受けた。1929（昭和4）年11月25日に高松宮殿下が悠紀齋田跡地を見学後、農業補修学校に立ち寄られ菜種栽培の説明を受けるとともに、太田教頭に直接激励の言葉をかけられたというエピソードが残っている。

このように菜種は大正から栽培され、昭和初期には水田裏作物として急速に発展した。太田教頭は昭和5年12月に交通事故に遭い、残念ながら37歳の生涯を閉じたが、遺志を継いだ野田愛吉（福桶）、宮本孫一（本郷、新品種宮本1号の開発者）らにより、ますます発展をしていった。1935（昭和10）年には研究成果「実収四石 菜種栽培の合理的栽培法」として出版された。これは、菜種栽培の研究の基礎となるものとして国や県の農業試験場等において菜種の栽培法を研究する人々の資料となったほどで、現在でも、なお重要な意味を持った本ということである。

製油会社も福岡町の太田油脂、蒲郡の竹本油脂、大阪の由原製油等が六ツ美産業組合に買い付けに来た。菜種の栽培は戦争末期と敗戦直後を除き1960（昭和35）年頃まで続いたが、長年にわたる連作の結果、病気の発生という打撃を受けた。その他にも高畝作りに労力を要すること、農業用水の水質悪化、農業外に兼業を求めるなどの状況が重なり、衰退をしていった。六ツ美の春の、菜の花が咲き蜜蜂が飛び交い蜂蜜の香りが漂う美しい豊かな風景は、菜種栽培の衰退とともに徐々に姿を消していった。

[太田功平（1893～1930）]

太田功平（おたこうへい）は、農学者、教育者。菜種の新品種「六ツ美種」の開発者として知られる。碧海郡糟海村大字土井（現・岡崎市土井町）に生まれる。中井村立中井尋常高等小学校を卒業後、村役場書記や小学校準教員をしていたが、愛知県第二師範学校（愛知教育大学）へ進学する。同校卒業後10数年は、富士松、桜井等の尋常小学校の訓導として教鞭をとった。1927

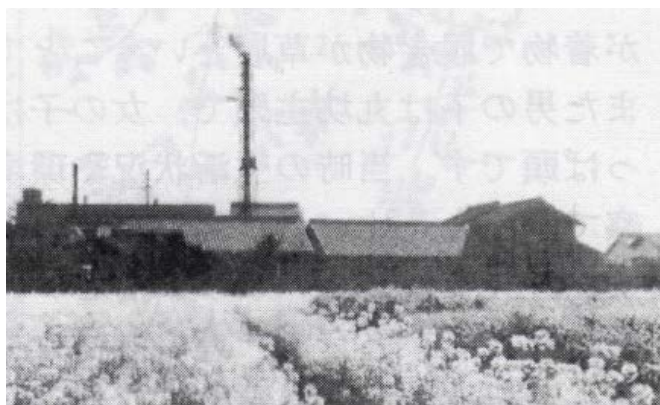
(昭和2)年、六ツ美村立農業補修学校の長谷川一男校長の招きにより、同校の教頭に就任。農村に住む人々の暮らしを豊かにするには裏作物の充実が肝要と考えた太田は、同僚らと菜種の研究および改良に取り組んだ。彼らが菜種に目を付けたのは、化学工業発展期にあった当時の日本の企業が菜種油の生産に乗り出し、専用の「なたね船」を使って輸出を行い始めたこととも関係があった。太田の試みは奏功、六ツ美地区の菜種の収穫量は飛躍的に高まり、有利な換金作物として農民の間に受け入れられていった



太田功平教頭



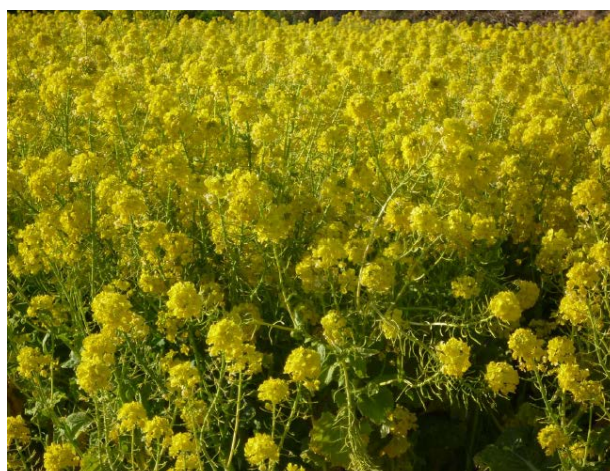
昭和初期の菜の花畑



太田油脂



菜種畑 170317



菜種畑 170317

本項は以下の資料を引用している。

[六ツ美南部の歴史・文化を紐解く]

著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 高須 亮平
発行日 2012（平成24）年3月31日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社

[わたしたちのふるさと 六ツ南 114 選]

監修者 総代会長 平井 良美
社教委員長 近藤 武美
著者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6年児童 114名
（平成25年3月19日卒業）
編者 岡崎市立六ツ美南部小学校 6年担任
権田 康成、加納 隆、坂井 純、榊原 美佐子、山本 佳愛
発行日 2013（平成25）年3月1日 初版発行
印刷所 ブラザー印刷株式会社
製本 ブラザー印刷株式会社
発行 岡崎市立六ツ美南部小学校

[岡崎の人物史]

著者： 岩月 栄治
編集： 岡崎の人物史編集委員会
発行日：1979（昭和54）年1月5日
印刷所：研文印刷社
板倉勝重（P89）、野本新十郎・渡邊弥蔵（P99）、早川龍介（P150）、鶴田勝藏（P190）、
太田功平（P192）、石川成章（P249）などの記述がある。

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者： 渋谷 環
発行者： 渋谷 環
発行日：2005（平成17）年9月19日
印刷所：ブラザー印刷（株）
安藤川（P39）、広田川（P39、P159）、占部用水（P45）、高橋用水（P45）、
耕地整理（碑文訓読 P64）、悠紀斎田（P129）、菜種栽培（P155）、
各種記念碑（P174）の記述がある。